

そ菜のマルチ栽培に関する研究

第1報 春まきセルリーに対する着色マルチの効果

下原 孫一・安部 勇徹

(大分県農業技術センター)

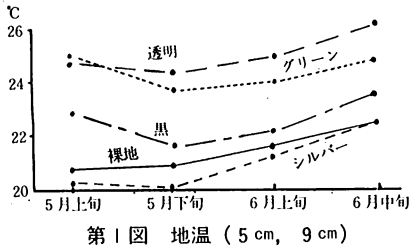
SHIMOHARA, M. and ABE, Y.

Sturdies on the Plastic Mulching for Vegetable Growing.

(I) Effects of Vasioous Colour Plastic Mulching Firms on Celery in Spring Culture.

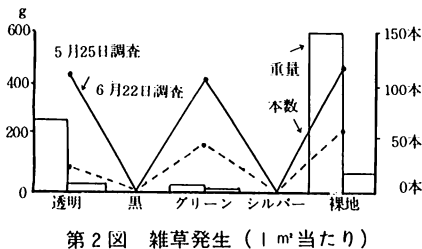
着色マルチの実用性を春まきセルリーを用いて検討した。セルリーは「コーネル619」を1月16日には種し、4月16日に高さ20cm、幅120cmのうねに2条に定植し、透明ポリ区(0.03mm)・黒ポリ区(0.03mm)・グリーンポリ区(G250.03mm)・シルバーポリ区(0.05mm)・裸地区を設けた。

1. 地温は第1図のように透明ポリ区がつねに裸地区にくらべ3~4℃高く経過した。グリーンポリ



区がこれについたが、初期は透明ポリ区と差が認められなかった。シルバーポリ区は裸地区とはほぼ同様な経過で推移し、黒ポリ区はこれらの中間の地温上昇効果を示した。

2. 第2図のように透明ポリ区は雑草が急速にのび、5月下旬には裸地区とともに、手取り除草を必要とした。



しかし、シルバーポリ・黒ポリ区では、雑草は発芽

したがそのまま枯死し、グリーンポリ区では雑草は2~3葉期の稚苗状態で生長を停止した。このように黒・シルバー・グリーンポリでは顕著な雑草防除効果が認められた。

3. セルリーの生長は透明ポリ区でもっとも促進され、初期にはグリーンポリ区がこれについた。黒ポリ区では裸地区と透明ポリ・グリーンポリ区の間的な推移で生長した。シルバーポリ区では初期は遅れたが、後期になり生長がよくなり、グリーンポリ区をおいこした。

4. 可販株の収量は初期に生長を促進された透明ポリ区と後期に生長を促進したシルバーポリ区がすぐれ、グリーンポリ区と黒ポリ区がこれらにつき、いずれも裸地区に比較して増収した。

第1表 収 量

区	可販株率 %	葉 数	全 重	調整重	区平均 9.6m²	
					調整重	抽苔株 %
透明ポリ	92	17.8	1.96 ^{kg}	1.50 ^{kg}	44.0 ^{kg}	4 %
黒色ポリ	92	17.5	1.75	1.42	41.0	5
グリーンポリ	84	17.6	1.85	1.45	39.2	13
シルバーポリ	92	17.0	1.97	1.50	44.0	6
裸 地	92	16.8	1.68	1.27	37.2	6

区調整重は透明・シルバーポリ区が高く、これにつき黒ポリ区>グリーンポリ区>裸地区の順であった。グリーンポリ区が低くなったのは抽台株がやや多かった結果である。

したがって、春まきセルリーについてはシルバーポリに薄手の安価な製品が望めない現状では、除草が必要であるが、透明ポリが有望である。グリーンポリも地温上昇効果と雑草防止効果でまさるので、期待される資材であるが、耐久性に改善点を残しており、また偶発的なものと思われるが、やや抽台株が多かったのでさらに検討したい。